

こ せい ゆめ 8. 個性と夢

ひと ゆめ そだ
人は夢を育て、
ゆめ ひと そだ
夢は人を育てる。



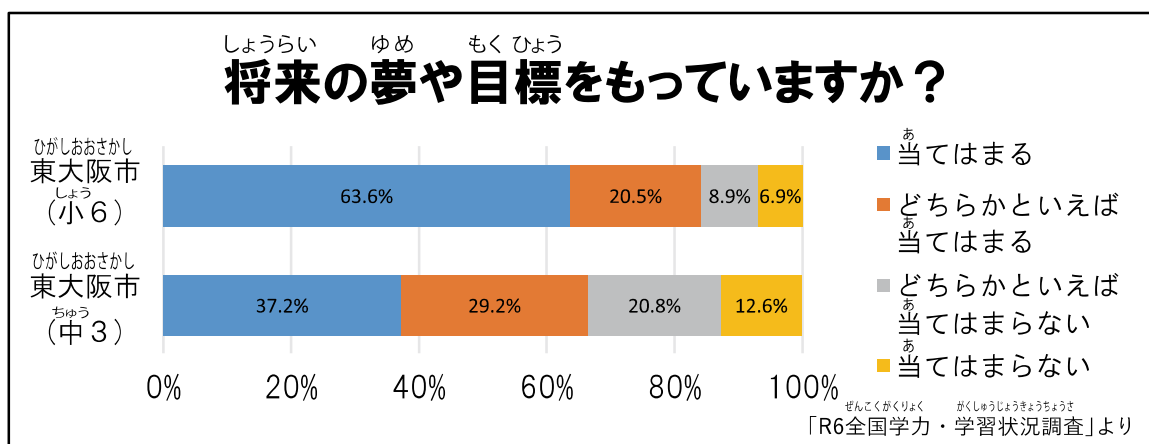
- ゆめ ひと つよ
●夢をもつと、人は強くなる。
- じぶん かんが じぶん こうどう ひと そだ
●自分で考え自分で行動できる人に育ててほしいなら。
- おな こ ひとり
●同じ子どもなんて一人もいない。
- せ よ ふ
●ダメなところを責めるより、良いところを増やしていこう。
- がっこう い こ くる
●学校へ行けない子どもの苦しさを、どんなだろう。
- こ がっこう なん
●子どもにとっての「いい学校」って何だろう。

ゆめ 夢をもつと、 ひと つよ 人は強くなる。



こ こ ゆめ き ぼう
子どもは子どもなりに夢や希望をもっています。どんな
ちい おも ゆめ き ぼう
に小さく、どんなにヘンに思えるものでも、その夢や希望
みみ かたむ
に耳を傾けましょう。

また、自分の経験や、長い間にわたって苦労して夢を実
げん ひとびと い かた はな じんせい
現した人々の生き方などを話しましょう。そして、人生の
もくひょう あせ なが しっぱい かさ たっせい
目標は汗を流し、失敗を重ねながら達成していくものだと、
み まも
はげまし、あたたかく見守っていきましょう。
おや こ おうえんだん
親は子どもの応援団です。



か ゆめ き ぼう みみ
子どもの夢や希望に耳を
かたむ はげ
傾け励ます



本和加家の場合



じ ぶん かんが じ ぶん こう どう 自分で考え自分で行動 ひと そだ できる人に育ててほしいなら。



こ すす さき しょうがいぶつ さきまわ か ほ
 子どもの進む先の障害物を先回りしてどけたり（過保
ご いっきよいちどう し じ か かんしょう
 護）、一挙一動にあれこれ指示をしたり（過干渉）するの
 ではなく、子どもが好きなものを見つけるまで待ち、でき
こ ちから しんらい み まも ちから
 るだけ子どもの力を信頼し、それを見守り、力づけましょ
み まも か
 う。あれこれしないで見守ることは、モノを買ってやっ
なに あいじょう
 り何かをしてやったりするより、ずっとむずかしく愛情が
 いることです。

おや じ ぶん こ かんが ただ
 また、親は自分が子どものために考えたことは正しいと
おも かなら かぎ じ ぶん おも
 思いがちですが、必ずしもそうとは限りません。自分の思
かんが お おも
 いや考えを押しつけるのではなく、「あなたは どう思う？」
こ い ぶん き こ き も
 と、まず子どもの言い分をじっくり聞き、子どもの気持ち
う と じ ぶん おも
 をしっかり受け止めてから、「自分はこう思うんだが」と、
いっしょ かんが まな し せい たいせつ
 一緒に考え学んでいく姿勢が大切です。

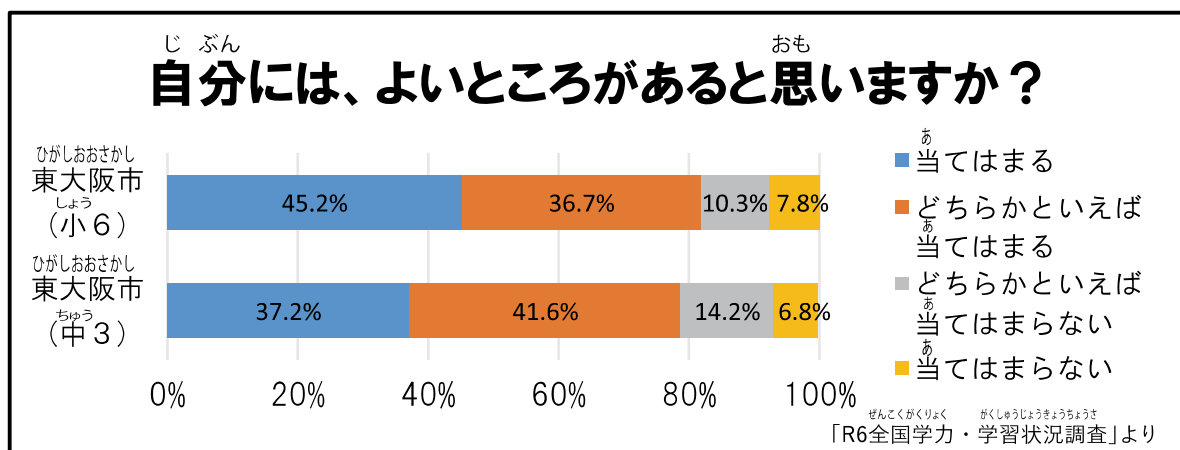
か ほ ご か かん しょう 過保護や過干渉はやめる



おな こ 同じ子どもなんて ひとり 一人もいない。



テストで何点とったか、どれだけ何々ができるかなどと、
他の子どもや平均値と比べるのに目をうばわれ、自分の期
待から子どもを評価することは、子どもたちの個性や成長
のために良くありません。そういう親の下では、子どもま
で順位ばかりを気にするようになったり、自信をなくした
りしがちです。親は、比べて不安になるのではなく、どん
なときも子どもの個性と成長を信じ、ゆっくりゆったり育
てたいものです。



ほか こ ひ かく
他の子との比較にとらわれない

ダメなところを責めるより、 良いところを増やしていこう。



子どもに大切なのは、自信と、自分を大切にする力です。
それは植物の根のようなもので、深く広く張るほど大きな
実りをもたらします。表面的なことにとらわれることなく、
その子がおおきく育つことを信じて心に豊かな水や栄養を
与えましょう。

そして、その水や栄養となるのが、子どもの良いところ
をみつけ、ほめることです。しかるべきときはしかり、ほ
めるべきときはちゃんとほめる。一つしかったら三つほめ
るぐらいのバランスを心がけましょう。ほめられることで
子どもは喜びを感じ、自信や自尊心を育てていくのです。



良いところを見つけてほめる



がっこう へ 行けない 子どもの 苦しさを、 どんなだろう。



ふ とうこう こ
不登校の子どもは、こころ せいちよう じょそう き
心の成長の助走期にあり、かぞく
家族をは
じめ まわ ひと
じめ周りの人は、ゆとりをもって たいおう ひつよう
対応する必要があります。
つよ
強くしかるなどして とうこう きょうせい
登校を強制したり、せんもん か
すぐに専門家だ
けに まか
任せしてしまうべきではありません。ふ とうこう げんいん し
不登校の原因を知
るためにも、おや お
まずは親が落ちつき、こ うった みみ
子どもの訴えに、耳を
かたむ ひつよう
傾ける必要があります。おや
親があわててしまうことは、こ
どもにとっても おお
大きなストレスになるからです。

ふ とうこう こ
不登校の子どもは多くは「行きたいのに 行けない」とい
う かっとう かか
葛藤を抱えています。まずは か てい こ
家庭を、子どもが くつろぎ、
あんしん い ばしょ ところ
安心できる居場所とするよう心がけましょう。

もちろん、がっこう ちいき そうだん きかん
学校や地域の相談機関などにも れんらく と
連絡を取りつ
つ たいおう たいせつ
つ対応することも大切です。

ふ とう こう こころ
不登校には心に
ゆとりをもって たい おう
対応する

こ 子どもにとっての 「いい学校」って何だろう。



「いい学校に行き、いい会社に入れば、幸せになれる」
という時代は終わりつつあります。これからは、学歴より、
自ら学び自ら考える「生きる力」を身につけることが求め
られます。

学習塾など、学校以外でも学びの場はありますが、イヤ
イヤだったり、翌日に疲れが残るような塾通いは、元気を
うばいます。さらに、心の成長に大切な遊びや、さまざま
な体験をする機会を減らすことにもつながります。

また、他の子どもや平均値との比較に目をうばわれる家
庭の雰囲気は、心の成長をゆがめかねません。

塾通いがほんとうに子どものためになるのか、塾通いが
行き過ぎていないか、もう一度考えてみましょう。

い す じゅく がよ かんが なお
行き過ぎた塾通いを考え直す